

ちんこきょうだいの

いわての

とってまき!

魅力わんこ盛りのいわてから、いいもの、面白いものをよりすぐり。毎回わんこきょうだいがナビゲートします。

今月のテーマ

伝統と新しさが息づく
岩手を着る!

“お祭り”の意味を伝えるウェア

祭りは人々の心をつなぎ、地域の伝統や文化を受け継ぐもの。その祭りに光を当てた「LOCAL WEAR IWATE(ローカルウェアイワテ)」という新しいブランドが誕生したんだって。

伝統技術とアウトドアのコラボ!?

作ったのは、一関市の「京屋染物店」と日本のアウトドアブランド「スノーピーク」。岩手で育まれた染色や裂き織りの技術を生かし、祭り衣装を普段から着れるようデザインしたんだ。

岩手の魅力を新しい感性で!

法被(はっぴ)や腹掛けなどの祭り衣装を普段着にデザインしたり、染め生地をコートなどの洋服に仕立てたりしてるんだって。このコラボから、生活の中に伝統工芸や郷土芸能が息づく岩手の魅力を発信できると素敵だね。



お祭り…を普段から
着てみよう!

「LOCAL WEAR IWATE」は、全国の伝統的工芸品が一堂に会する「KOUGEI EXPO IN IWATE」に出展されます。詳しくは10ページ上段をご覧ください。【商品に関するお問い合わせ】株式会社京屋染物店：一関市大手町7-28 電話0191-23-5161

今月の表紙

田山和康さん



1966年から盛岡藩の召し抱え釜師・第13代鈴木繁吉盛久氏に師事。2011年に独立し、滝沢市に「田山鐵瓶工房」を設立。

岩手を代表する伝統的工

芸品「南部鉄器」。職人の東ね役として、南部鉄器伝統工芸士会の会長を務める田山和康さんが、この道に入ったのは16歳のとき。鋳物師として代々盛岡藩に仕

えた鈴木家が継承する鈴木盛久工房に入り、第十三代・鈴木繁吉盛久氏に師事しました。

「工芸界で一目置かれていた師匠の元には、一流の文化人や客人が集いました。その傍らで見聞きしたことや、本物の工芸品に触れた経験は、私の大切な財産です」と、田山さん。技

術の研さんだけでは得られない、感性や審美眼を磨くことができたと振り返ります。

定年退職を機に、自分の工房を立ち上げたのは、「もっと自由に作品づくりを極めたい」との思いから。見られるものがアイデアの源泉という田山さんは、果物など身近にあるものや訪れた先の風景からヒントを得て、鉄瓶をデザインします。

「南部鉄器が途絶えなかったのは、時代の変化に対応する柔軟性があつたから。生活様式に合わせて、進化する努力を重ねてきたからです」と語ります。

新たな目標を問うと「次は若手の度肝を抜くような大作を作りたい」と目を輝かせます。若い職人たちを指導しながら、さらなる作品づくりに意欲を燃やしています。